

【六つの視点のイメージ】



リンゴの木
(松江の文化)



ヤシの木
(新たな文化)

全く新しい文化の
創造

一松江の文化芸術をリンゴの木に例えた場合一

市民は、リンゴの木があることは知っているけれど、このリンゴがいつから植わっているのか、誰が世話をしているのか、甘いのか酸っぱいのかよくわからない状態。

市・市民・文化芸術活動者・教育機関・事業者等の関係者は、リンゴの木の情報や現状をきちんと「知る」ことで「育てる」ことができる。「知り・育てる」ことが行き渡ると「伝える」ことのできる市民が増える。

リンゴの木を「伝える」ことができる人が「創造する」ことにより新たな価値を生み出す。今までなかった新しい文化が育つこともあるし、たまたま流れ着いたヤシの実が、風土が合って根付き育つこともある。

伝統的なものや「創造」されたものを「活用する」ことで、人とのつながりを生み出したり、お金を稼ぐことができる。

リンゴの木の周りを草刈りや土壌改良をする人もいれば、リンゴ祭りへの参加などで「支援（支える）」する場合もある。すべてを効率的に循環させることで、リンゴやヤシの木を守り育てていくことができる。

